

# 東部の窓 ～校長室だより～



豊川市立東部小学校

令和8年1月15日

←「私の今年の漢字」(5年)より

## 「できる」の反対は、「やらない」～1月7日・3学期始業式の校長講話より～

あけましておめでとうございます。2026年、そして3学期が始まります。楽しみですか？

2026年と言えば、校長先生はとても楽しみにしていることがあります。実は、校長先生は小学生の時サッカーチームでした。だから、6月に行われるサッカーワールドカップに注目しています。

さて問題です。この人は誰でしょう。サッカー選手です。正解はこちら。「長友佑都」選手です。長友選手は、ワールドカップサッカー大会に、なんと4大会連続で代表に選ばれていました。また、世界の名門クラブチームでも、活躍してきた人です。

彼が書いた本の中に、こんな言葉があります。『成功』は約束されていないけど、『成長』は約束されている」このことについて、長友選手はこのように話していました。

- ワールドカップで勝てるかどうか、成功を手にできるかどうかは、誰にもわからない。
- 勝負の世界、厳しい戦い、トップオブトップの意地のぶつかり合い。
- 誰もが、ここを目指してきたのだから、誰が勝ってもおかしくない。
- だから、いくら考え、悩み、汗をかいても、『成功する』とは限らない。
- うまくいかないことが多いくらいだ。
- でも、努力し続ければ、必ず『成長』は手に入れることはできる。
- 「考え」「悩み」「汗をかき」「努力」した経験は、必ず、その人を『成長』させてくれる。



この言葉は、言い換えると「失敗は成功のもと」と言えるかもしれません。どんなことでも、新しいことや今まで経験したことのないことにチャレンジするとき、ドキドキしますね。そこで、「**一步をふみ出す『勇気』**」が必要です。結果がうまくいかない時でも、挑戦したその過程は無駄ではありません。

「挑戦」しない人は、「失敗」はしません。でも、「成功」も「成長」もありません。4月にみなさんにお話を、覚えてていますか？「いろいろなことにチャレンジし、難しいなと思うことからも逃げないこと」という言葉です。できなかつた自分を責めるのではなく、挑戦した自分をほめてあげてください。

ところで、「できる」の反対は何だと思いますか？「できない」と思うでしょう。違うのです。**「できる」の反対は、「やらない」**です。

3学期は50日ほどの登校日数です。「やらない」ではなく、「チャレンジ」する、「やってみよう」とする、**そんな毎日にしてください**。自分の「成長」を信じて。期待しています。

## 「振り返る」ということ～12月23日・2学期終業式の校長講話より～

今日はみなさんに、覚えていてほしいことを話します。それは、「**振り返ること**」です。今年、毎日のニュースで話題にならなかった日はないというほどの活躍した人がいます。それはこの人、「大谷翔平」選手です。世界で大活躍しています。大谷選手は以前こんなことをインタビューで答えていました。「うまくいったときほど、○○○○○○ことが大切」さあ○○には何が入るでしょう。そう、「ふりかえる」です。もう一つ、「うまくいかなかつたことから、○○○○」何が入るでしょう。これは、「まなぶ」です。活躍をしている人ほど、自分の毎日を「振り返る」習慣があるようです。「何がよかったです」「次はどうするか」を考えているのです。「振り返る」ことで、「次にがんばりたいこと」が見えてきます。**できたことは「自信」に、うまくいかなかつたことは「次へのヒント」**にしてください。

このように、この2学期の「自分のこと」を、「もう一人の自分」で見つめ、振り返ることが、とても大切です。つまり、**「振り返ること」は、「次の一步をつくること」**なのです。



【元気に校歌を歌う  
子どもたち(3学期始業式)】



▲2学期の終わりにこのような話を子どもたちにしました。3学期によりよいスタートを切るために、自分自身のことを客観的に「振り返る」ことを大切にしてほしいと考えたからです。子どもたちは気持ちを新たに新学期を迎えてます。どうぞ家庭で、地域でも子どもたちを励まし、温かく見守っていただけると幸いです。

## 善行児童表彰おめでとう

1月6日、白井妃生さん（6年）が、豊川市ライオンズクラブから表彰を受けました。おめでとうございます。

妃さんは、日ごろから学校の諸活動において真剣に取り組み、同時にリーダーシップを発揮しています。まさに学校の要であり、人望も厚いです。今後の更なる活躍を期待します。



## 「あいさつ」のススメ ~互いの心を開いて深まるふれあい~

「あいさつ」は漢字では「挨拶」と書きます。「挨」は、「押して開く」「互いの心を開く」、そして、「拶」は、「相手に迫る」という意味がそれぞれあるそうです。つまり、挨拶をするということは、自分の心をオープンにして相手に近づき、すんでコミュニケーションを図っていくということになります。挨拶は、円滑な人間関係を築いたり、人とのつながりを強めたりするための第一歩となることでしょう。

東部小学校では、2と5がつく日の朝に、生活委員会の子どもたちが各教室を回って挨拶運動を展開し、挨拶の推進に努めています。ところで、昨年末に学校評価アンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。質問項目「挨拶がよくできる」について、「そう思う」「だいたいそう思う」という肯定的な回答の数値は以下のようでした。（カッコ内は昨年度）

◆児童 81.9 (79.7%) ◆保護者 56.5% (42.7%) ◆教職員 43.5% (33.3%)

3者とも、昨年度のアンケート結果より増加しています。子どもたちをはじめ、PTAや健全育成の方々による挨拶運動の成果でもあると思います。私が校内を歩いていると、多くの子が「おはようございます」「こんにちは」と挨拶してくれ、とても気持ちがいいです。一方で、子どもたちと大人の数値に差があるのは、子どもたちは挨拶をしているつもりでも、声が小さかったり、相手の目を見ながらではなかったりしているかもしれません。周囲の大人の期待値が高いことも要因でしょう。先述の生活委員の子どもたちが特に意識して呼び掛けているのは、「eye(あい)さつ運動」と呼んでいるように、「相手の目を見て」「明るく元気に」挨拶することです。今後とも、ご家庭や地域、学校と連携しながら挨拶の輪を広げ、文字通り互いの心が開かれた交流やふれあいが、更に深まっていくことを期待したいです。

## 東部っ子・フォトギャラリー

笑顔があふれる東部っ子の活動を紹介！(OSA.T)

